

環 境 年 報

令和4年度（2022年度）のまとめ

我 孫 子 市

我孫子市民憲章

わたくしたちは、利根川と手賀沼にかこまれ自然と歴史にはぐくまれた我孫子の市民です。

わたくしたちは、田園教育文化都市をめざす市民としての誇りをもち、明日への願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

- 水と緑と土のおいがいっぱいの 住みよいあびこにします
- 心と体をきたえ 生き生きと働き 伸びゆくあびこにします
- 老人を大切にし 子どもの夢を育て 幸せなあびこにします
- ふるさとを愛し 文化を高め 豊かなあびこにします
- みんなで話しあい きまりを守り 明るいあびこにします

昭和56年1月15日制定

市の花 ツツジ

サクラとともに親しまれ暑さ寒さに強いことから、伸びゆく我孫子市のシンボルとして、市制施行を記念し昭和45年7月1日に指定されました。

市の木 ケヤキ

空に向かってそびえ、伸びる木の姿は、我孫子市の将来をイメージするものとして、市制施行を記念し昭和45年7月1日に指定されました。

市の鳥 オオバン

手賀沼で最も数が多く、一年中見ることができることから、市を代表する鳥として、昭和63年12月1日に指定されました。

はじめに



本市は平成12（2000）年度に、環境保全に関する長期的な目標と施策の方向性を明確にした「我孫子市環境基本計画」を策定し、環境への負荷低減、手賀沼の浄化や自然環境の再生に取り組んでいます。

地球温暖化対策では、令和2（2020）年7月に、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、令和5（2023）年度を初年度とする「第二次環境基本計画」に、ゼロカーボンシティに向けた目標数値や取り組みを位置づけました。

市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量の削減を主な目的とする「あびこエコ・プロジェクト5」の報告では、令和4（2022）年度の温室効果ガス排出量は全体的に減少していますが、これは、新クリーンセンターが令和5（2023）年度本格稼働に向けて行った試運転の際に、一時的にごみを焼却せずピットに貯めておくなど、通常と異なる運用をした影響が大きいと考えられ、今後の推移を注視していく必要があります。また、現時点では目標数値に達していない状況であることから、より一層の温室効果ガス排出量の削減、環境負荷の低減に取り組んでまいります。

手賀沼は、昭和49（1974）年度から平成12（2000）年度までの27年間、日本一汚濁した湖沼という不名誉な記録が続きました。美しい手賀沼を取り戻すため、市民の皆さまをはじめ、国や千葉県、流域市が連携して様々な水質保全・浄化対策を実施してきた結果、水質は改善されつつあり、今では、手賀沼沿いの遊歩道を利用する方々や手賀沼を活用したイベントが年々増えています。

これからも、さらなる水質改善を目指し、環境基準であるCOD値1リットル当たり5ミリグラム以下を目標に、千葉県に対し、湖沼水質保全計画に基づく浄化対策の確実な推進や汚濁メカニズムの解明などの取り組みを強く求めていくとともに、引き続き市民の皆様や事業者の皆様への啓発に努めてまいります。

令和4（2022）年度は、オンラインを併用するなど新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、多くのイベントが開催できるようになり、まちに活気が戻ってきた年でもありました。今後も市のシンボル手賀沼を活かした多彩な事業を展開し、賑わいのあるまちづくりを推進するとともに、手賀沼が再び美しさを取り戻し、我孫子の豊かな自然環境を未来の子ども達にのこしていけるよう、これからも市民の皆さまと力を合わせ、様々な施策に取り組んでまいります。

本書は、令和4（2022）年度における我孫子市の環境の現状と施策をまとめたものです。本書が市の環境についての認識を深めていただくための一助となれば幸いです。

我孫子市長 星野 順一郎